

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402096		
法人名	有限会社 山崎メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 琴音		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴1丁目12番10号 093-562-5750		
自己評価作成日	平成25年03月05日	評価結果確定日	平成25年03月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人との関わり、喜怒哀楽が生活の中で自然に生まれるようなホームを目指しています
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道3号線沿いの利便性の良い6階建ビルの2階に、2ユニットのグループホーム「琴音」がある。管理者や職員は、「利用者が自分らしく、自己選択、自己決定出来る暮らしを支援する」という目標を掲げ、利用者の一日一日を大切に、生きがいのある暮らしに繋げている。ビルの3階以上には一般市民が住み、非常災害時には、住民の協力と支援があり、利用者が安心して避難出来る体制である。目の前の公園や、横の板櫃川の鯉や、桜並木は、そこを散歩する利用者が、季節を五感で感じ取り、力強い暮らしの支援に結び付いている。また、母体医療法人による、きめ細かな医療連携体制は、利用者の健康管理と、身体機能維持、向上に繋ぎ、いつまでも住み慣れた地域で暮らせる喜びは、利用者と家族から「琴音を選んで良かった」という信頼関係の構築に結び付いている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年03月15日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示常に共有実践に努めている	理念を、ホーム内の目に見える所に掲示し、毎月の職員会議で唱和し、共有を図っている。家庭的な雰囲気の中でんびりと過ごし、暮らしの中で喜びや自信を見つけ、利用者の思いや意向を尊重し、利用者を中心とした利用者本位の介護サービスの提供を目指している。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練・自治会行事と積極的に交流し地域とのつながりを暮らしに生かしている	自治会に加入し、毎年4月に地域と合同の防災訓練を実施している。自治会主催の花見に参加したり、近所の公園の藤棚の下で、藤の花を見ながらお弁当を食べる事が、利用者の楽しみとなっている。秋の町内運動会には毎年職員が参加し、地域の方と親しくなり、地域に愛されるグループホームとして、着実に地域との繋がりを深めている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれたホームを目指しており機会あるごとに近隣の方に理解支援を求めている	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催しサービス情報交換に活かしている	会議は2ヶ月毎、各委員の参加で開催し、ホームからは現状や取り組み、課題等を報告し、参加者からは、情報提供や相談がある等、ホームの運営、地域の状況について熱心に話し合われている。出された意見は出来る事から取り入れ、ホームの運営に反映させている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員や包括センターと協力関係が出来ている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を理解してもらい、情報交換を図っている。また、民生委員からの、地域の情報提供や行政職員とのやり取り等、協力関係を築いている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	機会あるごとに身体拘束の研修会を開催している	外部研修には出来るだけ参加し、参加出来なかった時は、内部ミーティングで、職員が身体拘束について正しく理解出来るよう話し合っている。「じっとして」「動かないで」等のスピーチロックについてもミーティングで話し合い、職員同士でチェックしながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待防止も同時に研修会を開き理解と防止に努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の外部研修参加で制度の理解に内部研修を通して努めている	現在、制度を活用している利用者が1名いる。職員は、外部研修に参加し、内部研修にて全職員に伝え、権利擁護に関する制度の理解に努めている。また、制度に関する資料やパンフレットを準備し、利用者や家族が制度を必要とする時、いつでも説明し、支援出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と書面をもって理解と納得を得ている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告をしたり又年1回ほどアンケートを取り運営に反映できるように努めている	家族の面会が多く、面会時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聴いている。花見や夏祭り、クリスマス会、新年会等、ホームの行事には家族に声をかけ、集まった家族同士で話しが弾み、お互いの思いを打ち明ける事の出来る家族交流会である。また、意見箱を設置し、お知らせや生活状況等を詳しく伝える「琴音通信」や、利用者の笑顔の写真を家族に届け、家族の安心と信頼に繋げている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは、介護計画見直しとともに運営に関する意見も積極的に聞き反映させている	ミーティングはユニット毎に毎月1回開催し、参加出来る職員が集まり、利用者一人ひとりについての気付きや意見を出し合い、介護計画の見直しに繋げている。また、ホームの行事や運営に関して活発な意見も出され、充実した内容である。出された意見は検討し、出来るだけホーム運営に反映させるよう努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体運営会議を通し職員が働きやすい環境作りに努めている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、男女、年齢に関係なく労働できるように十分配慮し長く務めることが出来るように体制づくりに努めている	職員の休憩室やロッカーを整備し、希望休や家庭の状況に配慮した勤務体制等、職員の働く意欲に繋がる柔軟な対応である。また、職員の特技や持ち味を活かして生き生きと働く事の出来る職場環境を目指している。職員の採用については、年齢、性別の制限はなく、ベテランの職員も、人生経験を活かしながらそっと利用者寄り添っている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修を通じ人権教育啓発に取り組んでいるまた日頃から入居者に対して実践している	法人全体で、「高齢者の人権問題をめぐって」という人権研修に取り組み、利用者の人権を尊重する事について職員間で話し合い、理念にもある「利用者一人ひとりの生活、人権の尊重」を目指し、日々努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が出来る限り内外の研修又トレーニングなど受けることが出来るようにバックアップ出来ている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会を通じ勉強会や交流に努めサービス向上に努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様に困っていること、悩み、不安、要望を聞きスタッフにも説明し介護計画に役立てている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同様に家族にも機器介護計画に役立てている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同様に必要としていることを探し他のサービスも		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り生活のパートナーになるように利用者の要望や要求に耳を傾け関係を深め安心した生活ができるように努めている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の案内を知らせて家族を含めた支援の大切さを話し合い協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や人との関係を継続できるように支援が来ている 希望があれば家族の方と話し合い実現できるように支援が来ている	昔からの知り合いや同じ職場だった人、友人、知人の訪問が多く、その方達から昔の利用者の様子や人柄等を聞く事もある。また、遠方の親戚が年に数回訪ねて来られ、利用者との再会を楽しみにしている。「自宅を見たい」と言われる利用者には、月に1回自宅を見に行き、近所の方と交流する等、馴染みの関係を大切に支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように職員が間に入り潤滑油として利用者間のバランスをたもてるように支援が来ている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了してもこれまでの関係を継続し相談、支援に努めている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれの希望や意向を生活に反映できるように職員は、努力しているまた 困難な場合でも本人本位に考え検討が来ている	職員は、利用者の食べたい物や行きたい所、嫌な事等、日頃の会話の中で聴き取り、出来るだけ本人の希望に応える努力をしている。また、思いを表現出来ない利用者には、職員が寄り添いながら、独り言や表情等から意向を汲み取り、出来るだけ思いを叶えられるよう努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の家族より生活歴や暮らしぶりや環境を聞き今後サービスに活かせるように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のそれぞれの過ごし方、心身状態、有する力を職員が、把握し暮らしやすい環境作りに努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでモニタリングしそれが反映できるように計画が来ている	利用者や家族の意向を聴き取り、毎月のミーティングでモニタリングを行い、介護計画を定期的に作成している。また、入院等、状態変化があった場合には、家族と連絡を密にとり、関係者と話し合い、その都度、迅速に介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で入居者の情報共有に努め介護記録やミーティングで見直し実践が出来ている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、整形外科医往診などニーズに対応してサービスの多機能化に取り組みが出来ている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を本人の状態を考え活用して発揮できるように支援が出来ている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人の希望もそうだが家族との納得も得られるようにかかりつけ医と連携し適切に受診できるように支援が出来ている	入居前からの専門医への受診は、家族と協力しながら支援している。協力医療機関による月2回の往診と訪問看護により、充実した医療連携体制がとられている。また、24時間の医療連携と、経験豊富なベテラン職員による介護サービスは、利用者や家族の安心と信頼に結びついている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の時は、入居者の情報を正確に又入院や退院などの連絡を速やかに行い適切な看護できるように支援が出来ている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合の情報提供や早期に退院できるように病院との連絡を円滑にできるように動いている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入居契約時に重度化や終末介護について家族と話し合いが出来ておりその方針や体制を説明している また関係機関との連携も一緒に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた話し合いを行い、利用者、家族の希望を聴いて、ホームの指針、体制を説明している。利用者の入居年数が長くなり、少しずつ重度化が進む中、職員一人ひとりの頑張りやチーム介護により、看取りに向けた支援体制が整ってきている。一昨年看取りを経験し、その経験を基に、職員全員の介護力の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は、消防訓練とともに行い内部研修でも実践できている		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	地域の方に参加していただく訓練や水害や地震に合わせた避難訓練を実施している	防災訓練を年2回開催し、非常災害時の近隣住民の協体制度の確認と救援活動を体験する事で、防災への意識を高めている。また、夜間において、18名の利用者を2ユニット2人の職員で避難誘導する繰り返しの訓練と、近隣住民への具体的な協力要請に向けての対策を検討中である。非常災害時に備えての非常食、飲料水の準備もしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に男性の方などは、プライドがあるので、言葉かけに注意している排泄や入浴も同様に	職員は、利用者の一人ひとりの希望や要望を克明に記録し、利用者のペースで利用者中心の介護サービスの提供を目指している。入居年数の長い利用者が多い中で、「慣れ」による言葉かけに関しては注意するように心がけ、利用者のプライバシーと羞恥心に配慮し、自由でのんびりした暮らしの支援をしている。また、個人情報の記録は、事務室で保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定をできる人は、その人主体で出来ない人もその人の立場になり思いや希望をわかるように支援している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく負担にならないように入居者主体の暮らしを支援できている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを考えて一緒に着る服を選んだり又散髪も外でしたり 不自由な人は、訪問理容を使ったりしてその人なりの支援を心がけている		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞き美味しく頂くこと準備や後片付けなど出来る事をしてもらう事で楽しみを見出す支援をしています	朝食、昼食は各ユニット毎に職員の手作りで提供し、夕食は、食材業者からの材料を料理し、また、家族からの差し入れの果物を添えて提供している。台所から包丁の音がリビングの利用者に届き、美味しそうな匂いが漂う頃、職員が利用者に声をかけ、軽い体操を行い、食事への準備を進めている。「居室でもう少しゆっくりしたい」という利用者に対しては、その方のペースを大切に、食事の時間を変更している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックと食事量のチェックを通じて個々の状態を把握し食事時間などは、観察を通じて健康状態を把握している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは1日3回又義歯の消毒など訪問歯科など利用し清潔保持に努めておる		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をベースに個々の習慣を考えなるべくおむつの使用を減らすように支援が出来る	排泄は、職員の声掛けにより、出来るだけ自分でトイレに行って貰う事をモットーに支援している。入院されていた方がホームに戻られ時には、尿意と便意があり、職員のきめ細かい見守りにより、徐々にオムツをはずしていている。排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握した職員による早めの声かけ、誘導により、トイレで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服や体調などを考慮し運動や食べ物やなるべく薬に頼らないよう二取り組んでいる		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や気分やまたタイミングを計りながら清潔を考え入浴が安らげる時間になるように支援している	入浴は、週3回と決めているが、毎日入る事も可能で、利用者の健康状態や気分を尊重し、日時の変更にも柔軟に対応している。また、入浴嫌いな利用者に対しては、利用者の状態に応じて判断し、安心して、楽しんで入浴出来るよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活のリズムを知り休息や安眠できるように支援が出来る		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム内には、入居者服薬一覧表など置きいつでも確認できるようにしてまた薬の内容についても薬情報説明書などをおいて職員が、いつでも見れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格生活歴を知り出来る事を無理強いないせず行ってもらったり誕生会やバスハイク等の支援を行っている		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される時は、スタッフまたは家族同伴で出来るように支援している	利用者の重度化により、全員での外出が困難な場合もあり、花見や近所のドライブ等、管理者や職員の努力で利用者の生きがいと喜びに繋がる外出の支援をしている。また、「本が欲しい」と言われる利用者と一緒に本屋に出かける等、個別の外出支援にも取り組んでいる。家族の協力を得て、外食や外出等も利用者の大きな楽しみとなっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭は、ホームが管理しているが、天気の良い日や気分転換に買い物に同行し本人に金銭を預け金銭の使う事の理解を支援している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、支障ない範囲内で出来るように支援している又 手紙のやり取りもできるように支援が出来る		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、生活感のあるなじんだ空間になっており季節感も取り入れて居心地の良い空間になっている	6階建てビルの2階部分に位置し、家庭的な雰囲気を演出するためにリビングに手作りのカレンダー、ゲームやなぞなぞ、しりとり、ことわざ等の用紙を掲げ、利用者のその日の気分で盛り上がっている。また、家族が色々と持参される品々等で、ホームの中は家庭的な生活感で満たされ、利用者が思い思いの暮らしを送る、居心地の良い共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの思いに応じて過ごせるようにそれで入居者同士が円滑にいくように職員が仲介役になっている		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の思い本人のなじみの物を聞き住みやすい居室で生活できるように支援している	広さが違う色々なタイプの居室がある。利用者の馴染みの小物や、使い慣れた筆筒や机を持ち込んでもらい、出来るだけその人らしい空間作りを心がけ、安心して落ち着いて暮らせるよう支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時に生活歴を家族より聞き又は、本人がどんなことが得意かを聞いたりして今出来る事を支援している		